

## ビオトープ「五霊池」ごりょういけ

ビオトープ「五霊池」は、平成25年10月、当時の6年生に手伝ってもらって作った自然観察用の池です。看板も、当時の6年生に書いてもらいました。

ビオトープの名前は、地名からとりました。明治時代の古地図によりますと、本校の周辺は「五霊」という地名でした。

「五霊」とは、中国から伝わってきた「風水」という考え方によると、いずれも想像上の動物で、北に玄武（黒い亀）、南に朱雀（赤い鳥）、東に青龍（青い龍）、西に白虎（白い虎）、そして、中央に麒麟（または蛇）という精霊のことで、これらに守られた場所は、とても平穏で安定した場所になるそうです。

また、建物の北東側を「鬼門」といって、災いが来る方向といわれています。「五霊池」の位置が、ちょうど校舎の鬼門の方向にあるので、学校に災いが来るのを防いでくれる守り神になると見立ててみました。

当初、池はコンクリートで作ろうと思いましたが、コンクリートはひび割れを起こし、東日本大地震のような揺れには耐えられないということで、防水シートという分厚いビニルを買って、掘った穴に敷きました。ですから、棒などで池をつくと、穴が開いて水が漏れてしまいます。

平成26年4月に、「自然を親しむ会」の方から頂戴した40ぴきの「ミナミメダカ（クロメダカ）」を池に入れ、繁殖させています。

このメダカは、もともと野生のメダカで、南河内地区のメダカです。「♪メダカの学校は川の中♪」という歌があるくらいですから、昔は日本全国、どこの小川にもメダカはいました。今は「絶滅危惧種Ⅱ種」に指定されています。同じメダカでも、棲んでいる場所が違ると、少しずつ姿形が異なるそうです。

「蔵王子どもの森」は、将来的には、メダカやドジョウが泳ぎ、カエルやヘビが走り、ウグイスが鳴き、ツバメが舞い、チョウが乱舞するような森にしたいと思っています。

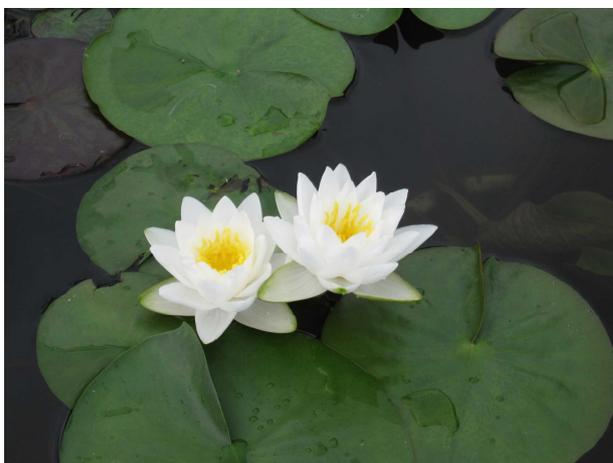
その中で、目を輝かせながら身近な生き物に触れ、自然について学ぶ吉西小の子供たちのことをイメージしています。



ビオトープづくり(平成25年10月)



生き物を観察する子供たち(平成26年6月)



スイレンの花(平成26年7月)